

平成19年度に実施された事業の結果報告及び今後の方向性(概要)

※本ページは各事務事業の概要紹介と19年度の報告を目的としています。評価の詳細については次ページをご覧ください。

事業名	環境にやさしい農業推進事業	所管	市民経済部 農政課
			Tel 2998-9158

事業の目的 (何の為に 行うか)	地球環境の保全、都市生活との共存、安全で安心な農作物の生産する農業者を増やしていく
------------------------	---

対象 (誰を、何を 対象としてい るか)	市内農業者	対象とした数	1,934	戸
		実際に 利用した数	302	戸

活動の内容 (何を したか)	<ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ…発生予察から適期防除により化学合成農薬の減少を図る。事業費の2分の1以内を補助する ・緑肥…施用することで有機物肥料が供給され、化学肥料の削減を図るとともに、風食防止、景観形成等を通じて周辺住環境に配慮する。事業費の2分の1以内で一人あたり5,000円を限度とする ・生分解性マルチフィルム…微生物によって分解されるマルチフィルムを利用することにより、廃棄物の減少を図るとともにマルチフィルム除去作業の省力化を図る。事業費の2分の1以内で一人あたり10,000円を限度とする ・交信攪乱剤…フェロモンを利用した交信攪乱剤を利用して害虫の交尾機会を減らし、発生防止を図ることで農薬使用量を低減する。事業費の2分の1以内で一事業主体あたり50,000円を限度とする 								
	活動実績	項目名	フェロモントラップ利用推進事業	257	項目名	緑肥利用推進事業	2636	項目名	生分解性マルチフィルム利用推進事業
			単位 箇所			単位 a			単位 本

経費 (どれだけか かったか)	当初予算額(千円)	決算額(千円)	事業費合計(千円) ※人件費・公債費を含む	市民一人当たり単価(円)
	1,350	1,350	2,102	6.2

成果 (結果として どうなった か)	成果指標名	説明 (計算方法等)	目標値	実績	達成率
	事業参加者数	事業に参加した農家戸数	290 単位 戸	302 単位 戸	104.1 単位 %

今後の 方向性 (所管の意 見)	総合 評価	* 事業の継続 ⇒ * 拡充 縮小 統合 改善・効率化 改善余地なし その他〔 〕				
		終了	⇒	事業完了	終了	休止
	予算	* 現状どおり	増額	減額	終了	

今後の 方向性 (二次評価の 意見)	二次評価実施の有無 * 有り⇒下記評価へ 無し⇒終了					
	総合 評価	* 拡充 縮小 統合 改善・効率化 改善余地なし その他〔 〕 終了				
	予算	* 現状どおり	増額	減額	終了	

平成 20 年度事務事業評価表(一般用)

①事務事業名		担当 部課 グループ	部課コード	031200	TEL	2998-9158
事業コード	環境にやさしい農業推進事業		市民経済部 農政課			
031203	開始年度 平成 14 年度 → 終了年度 平成 年度					

②事業の概要	事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 法定受託+附加	根拠法令
	分野別計画・指針	所沢市地域農業マスタープラン	所沢市環境にやさしい農業推進事業実施要領
	関連・類似事業	病害虫防除対策事業、農業資材等適正処理推進事業	
	総合計画の体系	政策 第5章にぎわいと活力に満ちた魅力あるまち 施策 1節 農業 中柱 1 生産基盤の整備 小柱 (4)環境に配慮した農業の推進	
	行政改革大綱における行動計画への位置づけ	H19市民意識調査における施策の順位…43施策中 21 位 実施計画における位置づけ… H19 A H20 O	
	事業開始の背景	化学合成農薬、化学肥料の使用量を削減する中で、実績から有効な手段に対して、購入に際し助成を図る。	

③事業の内容	目的(何のために行うか、具体的に)	地球環境の保全、都市生活との共存、安全で安心な農作物の生産する農業者を増やしていく						
	対象(誰を、何を対象としているのか)	市内農業者						
	利用数の考え方	事業に参加した農家数						
	対象数	単位	平成 18 年度	1,934	戸	平成 19 年度	1,934	戸
			平成 18 年度	277	戸	平成 19 年度	302	戸
	事業の具体的な内容及び実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ…発生予防から適期防除により化学合成農薬の減少を図る。事業費の2分の1以内を補助する ・緑肥…施用することで有機物肥料が供給され、化学肥料の削減を図るとともに、風食防止、景観形成等を通じて周辺住環境に配慮する。事業費の2分の1以内で一人あたり5,000円を限度とする ・生分解性マルチフィルム…微生物によって分解されるマルチフィルムを利用することにより、廃棄物の減少を図るとともにマルチフィルム除去作業の省力化を図る。事業費の2分の1以内で一人あたり10,000円を限度とする ・交信攪乱剤…フェロモンを利用した交信攪乱剤を利用して害虫の交尾機会を減らし、発生防止を図ることで農薬使用量を低減する。事業費の2分の1以内で一事業主体あたり50,000円を限度とする 						

④前年評価と改善点	平成19年度事務事業評価結果(平成20年度の方向性)	最終評価 <input type="checkbox"/> 一次評価 <input checked="" type="checkbox"/> 二次評価
	総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ (<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 []) <input type="checkbox"/> 終了 ⇒ (<input type="checkbox"/> 事業完了 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 休止)
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了
	平成19年度中に改善した点	フェロモントラップ利用推進事業の対象地域を拡大した。また、生分解性マルチフィルム利用推進事業と緑肥利用推進事業について事業主体をJAいるま野にしたことにより、受益を受ける農業者の範囲が拡大した。

⑤経費	《会計種別》	一般会計	平成 18 年度 (千円)	平成 19 年度 (千円)	平成 20 年度 (千円)
	当初予算		1,350	1,350	1,500
	決算(見込み含む)		1,209	1,350	
	(嘱託職員) (臨時職員)	(人) (人)	(人) (人)		
	正規職員人件費	0.08 人	736	0.08 人	752
	公債費				
	事業費合計		1,945	2,102	
	財源内訳	一般財源	1,945	2,102	1,500
		国・県支出金			
		受益者負担金			
		市債			
		その他			
	市民一人当たり(単位:円)		5.8	6.2	
	利用数一単位あたり(単位:円)		7,021.7	6,958.7	

⑥指標	項目名	計算方法	単位	H 18	H 19	H20見込み	将来目標	
	活動実績	フェロモントラップ利用推進事業	設置箇所	箇所	247	257		
		緑肥利用推進事業	対象面積	a	2399	2636		
		生分解性マルチフィルム利用推進事業	導入本数	本	255	423		
	成果分析	事業参加者数	事業に参加した農家戸数	戸	目標値	260	290	
%				実績	277	302	実績値の拡大を図る1 実績値の縮小を図る2	1
				達成率	106.5	104.1		

⑦一次評価	評価項目	現状評価	評価項目	現状評価	
	対象設定	事業の対象を見直す必要性	実施主体	現在の実施主体	見直しの必要性
		<input type="checkbox"/> 対象を絞る <input type="checkbox"/> 対象を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要なし		市	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	他事業との整理・統合	類似・関連事業などとの整理・統合	受益と負担の関係	受益者負担の有無	見直しの必要性
		<input type="checkbox"/> 統合する <input checked="" type="checkbox"/> 連携する <input type="checkbox"/> 類似事業がない <input type="checkbox"/> 統合等必要なし		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
明らかとなった課題	事業内容の周知、他の事業との関連性を含めた説明・啓発				
今期目標項目(何を)	達成水準(どこまで)	時期(いつまで)			
平成20年度における目標設定	対象範囲を拡大する。	フェロモントラップ利用推進事業については、対象地域を1地域増やす。緑肥利用推進事業・生分解性マルチフィルム利用推進事業については、対象面積、導入本数をそれぞれ10%増やす	平成21年3月		
平成21年度における事業の方向性	総合評価 <input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ (<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 []) <input type="checkbox"/> 終了 ⇒ (<input type="checkbox"/> 事業完了 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 休止)				
予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了				
評価理由	市民が安心・安全な農産物の生産・供給を求めている状況にあって、減農薬、減化学肥料栽培などの環境に配慮した農業を推進することは、環境にやさしいまちづくりを進める本市の方針に合致する非常に有益な事業である。				
評価日	平成20年5月16日	記入者職氏名	農政課長 越阪部孝夫		

⑧二次評価	事 平成21年度における事業の方向性	総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [] <input type="checkbox"/> 終了				
	後 総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了					
	前 部内優先順位… 21 位	非常に高い	高い	やや低い	低い	優先度評価	<input type="checkbox"/> A: 優先的に資源配分をするべきと評価する事務事業
	見込まれる貢献度	総合計画上位目標	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> B: 重要であり引き続き実施すべきと評価する事務事業
	市長マニフェスト	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> C: 現状での実施は見送るべきと評価する事務事業
評価理由	社会的に環境政策への注目度が高いことなどから、本事業は「拡充」されるべきものとする。しかし、事業開始より相当年が経過していることなどから、事業参加者の増により「何がどうなったのか」といった効果の検証が必須である。なお、当該事業に係る農作物の安全性について、市民へさらに周知すべきものとする。						
評価日	9月1日						

⑨個別計画における方向性	◎環境基本計画	本事業の左記計画における位置づけ… 有り	計画コード	151	213
施策の体系	1-5土壌・地盤の保全	施策の方向	1-5-1土壌汚染防止対策の推進		
	2-1緑地の保全		2-1-3農地保全の推進		
◎次世代育成支援行動計画	本事業の左記計画における位置づけ… 無し	計画コード			
基本目標					
主要課題					
施策の方向					